

With You

ウィズユー

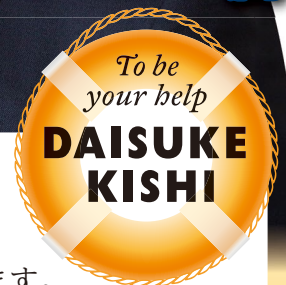
～教育者深訪特別号～

武蔵野美術大学 学長 長澤忠徳 先生と対談



目黒区議会議員
無所属

岸 大介



ご挨拶

平素は岸 大介の議会活動にご支援、ご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。

間もなく、目黒区議会議員選挙が行われます。二期目を目指して、私自身も出馬する予定です。この4年間は無所属・無会派ながらも、少しは貢献できたと思いたい所ではありますが。一人が故の至らなさ、力不足のジレンマの中におりました。次の4年間は、肩書を取ることをも意識し、会派結成の折には幹事長ないしは、委員長、議長といったポジションを獲得すること、その上で目黒区の執行部側と対等に対峙できる立場にこだわりたい…。その様に思っております。この一期4年間の総括まで。陰に陽に、ご支援頂きまして、ありがとうございます。

本日、リーフレット“特別号”をお届け致します。“岸”の活動報告の一端とさせて頂ければ幸いです。勝手ながら、貴方様のご多幸を祈念致しております。

令和5年 春

目黒区議会議員

岸 大介

活動報告 春の6大トピック

- 1. 武蔵野美術大学 学長 長澤忠徳 先生と対談する!! 2ページから一挙掲載!
- 2. Youtubeチャンネル、「地方議員のリアル」にゲスト出演する!!

Part1



Part2



- 3. 親子カフェ(こども食堂)と一緒に楽しむ!!
- 4. 「二十歳のつどい」に、文教こども委員として参列する!!
- 5. 消防団積載車機関科研修を修了する!!
- 6. ★大金星 3月10日「東京都平和の日」に弔旗が掲げられる事になりました!!

地域・社会に活かされる“デザイン”をもとめて



日々の取り組みと葛藤

岸 長澤先生とは1994年から98年までの東北芸術工科大学での学生時代に指導を受けたご縁で、本日は対談をお引き受け頂きました。5年前の同窓会以来ですかね!?

長澤 2022年ってのは本当に色々な事があったけど、またこの4年間、議会の中でも相当頑張ってたみたいだね~!?

岸 先生、ありがとうございます、(笑)。毎議会“気合い”入れてやっていますが、未だに学びが多いです。区執行部側の動きや考え方を、予算・決算の観点を含めて、色々な角度から質疑として聞き出してゆくのが仕事ですが、それに向けての準備も技術面も、少しは慣れてきたと思います。去年は本当に色々あり過ぎて、時間が足りなかったというのが正直な所で。コロナの事や、ウクライナ戦争の事は大き過ぎる話題なので止めておきますが、安倍元首相の事件に前後して、2度も根本的なアイデンティティーや教育に繋がる事を話題にした事が頑張った事の一つだと思います。

例えば、先の大東亜戦争での戦死者、例えば沖縄に出征して戦死されている目黒区民が57名居らっしゃったという事が解ったのです。これまで公表されてこなかったのですが、この秋に初めて東京都が公表した。というのは、やっぱり議員としてというよりも、もう探究心を超えて、先人達の名誉を守りたい、先人の方々が守ろうとしたモノが、今僕らに託されているのは当然の事ながら、また

その名誉を回復したいっていう、何か取りつかれた様にやった。子供や次の世代というのは勿論大切なのですが、僕らの祖父母の世代の頑張りで今に繋いでもらっている、その今という現実。その想いと労力そのものが“宝”なのだという訳で。もう日本人である事が、この歴史の連続の上に今僕らが存在することが愛おしくなってきた。まあ、それ自体は個人の感性かもしれませんが。一方で、公として教育には、その史実を生かしてゆかねばならない筈だと思ったんです。後で言及しますが、それが何だか今は曖昧になっていませんか? という疑いをね、議場で言葉にしておかないといけない。

長澤 やっぱそういう視点が必要だよな。公人という事の意味で。

岸 何が問題だったかっていうと、東京都からの沖縄への出征者の中で、3521人という表記で一緒に戦死者と公表されていたのですが、風化させてしまう前に、これをせめて市区町村別に実際何人の方が、自分の住む町・村から、要は近所の親せきのオジさんが出征していった戦死したの? っていう感覚値がある事が、もっとリアルに近づくんじゃないかと思った訳です。それで沖縄に情報公開請求したら、公開できる様な名簿を持ってないって言うんですよ。持ってない訳無いだろう!? っていうんですけど。それで国会図書館とか色々使って、過去の資料、区史や50年史なんか全部洗いざらいやったら、結局、陸軍は東京都が、海軍は厚労省が保管していた。出征者名簿というかその戦死者名簿っていうんですか? 「公表」には6等身以内っていう制約がある中で、戦死者名簿迄はともかく市区町村別の戦死者の数字ぐらい公表



長澤 忠徳 武蔵野美術大学学長

1953 富山県生まれ
1978 武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒業
1981 Royal College of Art, London 修士課程修了 MA (RCA) 取得
1984 富山県イメージディレクターに就任 (2002年まで)
1986 有限会社長澤忠徳事務所設立、代表取締役就任
1987 国際デザイン・シンクタンク Design Analysis International Limited (本部ロンドン) 設立に参画、ディレクター、日本代表を歴任
1993 東北芸術工科大学デザイン工学部情報デザイン学科助教授に就任
1999 武蔵野美術大学造形学部デザイン情報学科教授に就任、現在に至る
2015 武蔵野美術大学学長に就任、現在に至る
2016 Royal College of Artより美術・デザイン教育の国際化を先駆的に推進し、世界に影響を与えた功績が認められ、日本人初のシニアフェローの称号を授与
専門：カルチュラル・エンジニアリング、デザイン教育、デザイン・コンサルティング

できるだろう?っていうのが落とし所で、結果目黒区からはその数字だったという。

また、一般的に旗日が休みなのは理由があって、その象徴が弔旗に表されている。本来、自然災害や、大きな“大義”の中で犠牲になった方々に思いを馳せるという意味での象徴が弔旗なのであれば、もっとちゃんと日付を決めて掲げませんか? その時々で風潮で弔旗を出す出さないみたいな日和見での決め事は止めませんか?みたいな事を一般質問でやったら、「お前、自民党より右なんじゃないの?」って、面白がられたりしました。これらのことをやったのが、大きかったですね。その直後に故安倍元総理の事があって、国葬の時に、区も議会も“国葬”なのにもかかわらず何もしない。弔旗さえ出さないって言うから、更に一暴れしたんですよ。主義主張や考えや、功罪に対しての評価は様々かもしれないけど、国で決めて世界中に発信したスジは通すべきだし、総理経験者が選挙の演説中に後ろから銃殺された事に対して、レベルは違えど同業者として、人としての純粋な弔意と、蛮行を許さないという意思表示にかけてね。でも、区も議会も満足できる対応には至らなかった。

長澤 進歩的保守って事だね。クリエイティブって意味の保守ね。(笑)。

岸 とはいえ4年前の選挙で下から5番目のギリギリの当選で、「無所属で頑張ります!」って言って送り出された以上、無所属・無会派で唯一通しました、4年間。何処にも、何にも拘束されないで突っ張り切ったのは僕だけでしたよ。大変でしたけど! ちなみに定数は36なのですが、ある意味で自由であるものの、その代わり判断と責任が付きまとう。ありがたい事に、こっそりと色々と教えてくれる先輩議員もいらっしゃいました。

長澤 あれはどういう仕組みで演説とか、委員会とか決まるの??

岸 これが公平で、年間に一般質問できる持ち時間が一人につき1時間って決まっているんです。あと予算・

決算委員会の時も、公平に1人57分とか。そういう時間を割りあってられるんです。例えば、10人の会派だったら570分持ってる。そういう意味では僕は1人の無会派扱いだから、57分だけ自由に使って下さいって、それが質問毎にカウントダウンされてゆく。また、無会派の一人親方として、予算や決算の認定に関しては本会議で賛成(反対)討論ができるんです。それはとても公平だと思います。その代わり、区長の所信表明に対する、代表質問権が無い。やり様によっては、年4回ある議会定例会の本会議の全てで演壇に立って演説ができるという。この4年間で、良くも悪くも、一番演壇に立って演説したと思います。力は弱いですけど!(笑)。あと、区議会だよりには毎掲載させて頂きました!!

長澤 なるほど。

岸 面白いのは、質問の順番はやっぱり会派の大きい順なんですね。自民、公明、共産、立憲って続いていて、やっぱり無会派だから最後になっちゃう。辛かったのは、殊に委員会とかだと、自分の番になった頃には、メインストリームの質問が出尽くして、質問としては、細かい所や、相当な変化球しか投げられなくなっているという難しさ。あまり人が焦点を当てないところに当てるしかない。

長澤 よく議員定数とかの話は話題に上がるけど、目黒は定数ってどういう感じなの?

岸 先の、常任委員会も結局四つだから、各委員会割り当てが9名なんですけど、今33名(欠員3)だから、一つの委員会の構成委員が8人位ですけども、委員長、副委員長っていうのは、その場を仕切らなきゃいけないから、質問は殆ど出来ない。となるとヒラ委員の6人で、委員会の質疑をスジ立てて成立させなきゃならない。一方で、答えるのは所管の役人ですから、知見も経験値も上だし、過去の経緯も知っている上に、関連理事側は全員出て来ますから、答弁でグウの音も出ない程に論破にされちゃった事もしばしば。まあ我々が各論に入りすぎてしまって

もいけないのですが。だからあの議員定数を削るっていうのは、また少数意見の切り捨てにつながってしまうので、一側面しか見ていない事になるのではないでしょうかね。結局、少なくしてって、この30年間で何が起こったかっていうと、議会の劣化につながった。目黒でも1割以上、国なんて、過去覚えている限りで衆議院で511人、参議院で252人だったから、50も減って昨今の体たらくですからね。

長澤 中にやっぱりトゲのある質問したり、でもやっぱりあらかじめ質問って出すんでしょう？

岸 委員会に質問調整は無いです。本会議の一般質問の時には質問通告をして、例えば30分という時間の中で、初質問は7～8分にしておいて、大体15分ぐらいで最初の答弁が返って来る訳です。そこまですべての8割方出来上がってる感覚で、予想も出来るのですが、テーマに対して再質問、再々質問まで全部で3回できるのですが。最後の詰めをどこまで、向こう（執行部側）を一步こちらの主張を認めさせるのか、寄せて返答させられるのかな、っていうのが本当の勝負である訳です。勿論、見せ方としてね、糾弾して戦っているポーズを作るやり方もあるのですが、それでは平行線で終わってしまいますから、僕はやりませんが。間違っただけいけないのは、役所側の答弁を詰まらせたり、論破する事が目的なのではありませんのでね。

長澤 大体基本的にその議論をした上で、ある種の条例決めるとか予算つけるとか、それが落としどころね？

岸 「検討していきます。」みたいな所でその場は終わりますが、年度明けの決算委員会で結果どうなったのかを聞いたり、次の年度に向けた予算要望に持ち出したりして。「そういえば以前はこういうご答弁頂いたけど、現状どうですか？ この度どの様になりましたか？」なんてやる訳です。3歩進んで2歩下がるを繰り返してやり続けている感じです。

教育現場で取り組まれている試みと、政策デザイン

岸 先生も、この8年間もムサビの学長として大車輪状態であったとは思いますが、どの様な改革をなさって来たのですか？

長澤 僕も駄目だよ、定年制度を70歳から下げて67にしたから、もう総攻撃受けてボコボコにされてさ、学長になったのが2015年だからね、色々な改革をやって来たつもりだけど。もうそれで何て言うのか、旧守派は攻撃して来るから分かりやすいんだけど、改革支持派っていうのはさ、サイレントマジョリティーだからね。旗を

振る側からすると、「お前らもちゃんと意見言えよ!」とか思うんだけど、みんな矢面に立たされるの嫌だし、面倒くさいし! みたいな。それで戦局としては、あれもこれも、全部潰してやるだの、させないだのの闘争な訳だ。だけど学内改革も、新しいチャレンジも色々しましたよ。造形構想学部スタートさせたり、市ヶ谷キャンパスも開設したしね。これを始めていなかったら今頃、大変だったと思うね。今年ね、入学希望者が10%増えたの。18歳人口が減ってきて、大学入学共通試験も難しい時代に、色々やって来た成果がやっと結実しかけて来たと思いたいね。

今政府では、岸さんと同年代の連中が、政策デザインっていうの? あのDX (デジタルトランスフォーメーション) ってやつ。若手が、要するに旗頭のデジタル庁を含めて、マイナンバーカードを含めて、政策立案の中にデザインの思考を入れようっていうのでね、ようやく次世代へのインフラっていうか、社会機運が整ってきている。霞が関を変えるって勢いで、デザインの発想を政策に反映させようとしているんだよ。ところがね、繋がってないんだよな、これが。つまりデザイン思考を政策立案に使おうという話と、DXがうまい具合に役人の側で消化できてない訳。

岸 多分それはすごくマイノリティっていうか、難しいんじゃないですか? DXと、クリエイティブっていうかデザイン思考っていうのを一致させて、イメージを具現化させようとする事に無理があるのではないですか?

長澤 だから結局さ、こういう機会にね、DXを契機として新行革やりたいんだよな? って言うのね。向こうも、「そうです!」って。ソコ迄は良いんだけど。産・官・学で時代に通用する人材を育てるって事でね。経産省、文科省なんかが、その趣旨を聞きに来る訳。それで助成金を出す、出さないだの、聞こえの良い事ばかり言って帰って行くんですよ。局長まで来てね。「その線で政策大募集するからぜひ応募してくれ!」って。でも応募したらさ、ものの見事に落ちるんだよ! プレゼンで勝っているのにね。でも選ぶのはね、東工大と京大とかのお堅い、もうそういう世界な訳ですよ。ムサビは単に私学じゃない。どうしてもシンボリックにそういうバイアスが働いている様に見えるね。結局それでもって、無難な団体にもってかれてね。例えばデザインを、要するに様々な専門分野に加味していくようなプロジェクトとか、基本的にはだから今ほら、社会がどんどん変わってるでしょ? そうすると、適応能力をどうやって探すんだっていう話で、基本的には仕掛けて、新しい試みをやってみなさいと言うことになるんだけど。そういう意味で言うと、国が次何しなきゃいけないっていう様な事。教育、特にクリエイ

ティブに関係するような教育の部分は、ウチがもう唯一の事例としての存在だから、なかなか理解してもらえないんだよね。つまり、何かというと、ココの取り組みが美大だったんじゃないの？教室に閉じこもって絵を描かないで、何かトンデモない事をしようとしているんじゃないの??というレッテル貼りの話。

岸 不気味なんでしょうね、美術デザインの教育機関が所謂“クリエイト”の枠を飛び出している事が。美大っていうとやっぱ横並びで、何か一緒くたなんだなってイメージをぬぐえないと思うんです、外から見たら。ところが、先生が仰る様に、社会とか経済とか、国に向かっている方向性というか、意識というものが、美大そのもののアイデンティティーと相容れない、相容れたくない。また、やっぱり美術大学の子達って、そもそもクリエイションっていう、いわゆる特殊な世界と思われる所に入り込む、閉じこもる傾向があって、その自分たちの活動しうる、ある意味、クリエイションという“聖域”を守ろうとする性向があると思うんです。「ここからは僕らの世界だから、特殊な技能を持った世界だから入ってこないで!」ってね。本来、デザインっていうのは「色や形」だけを意味している訳でなくて、造形力だけでなくって創造力なんだって事を忘れてしまっている。

長澤 何か独特の、何か普通の大学とは違う別もんだ的な世界観を作り出すみたいなね。要するに一生懸命内向きだった事は美大群が成立する為にはあったのは事実だね。僕、多分岸さんが政治を動かせる立場として、現役というか、違う世界に一步出たっていう事と、要するに美術大学が美大のイメージの中に安住していたとしても、結局社会全体は変わろうともがいていて。その世界に対して、これまでは内側に向けて、存在を形成してきたけど、もっと開いていかないといけない！本当はみんな求めているんじゃないのか？俺たちはもっと開いていくぞ!! っていう意思表示は2019年に開催した世界美術大学学長サミットの東京宣言としてまとめたんですよ。

岸 おお、スゲー!! でも、またやっちゃいましたね、(笑)。その自己設定したテーマを超えられるかっていう“また”挑戦ですかね!?

長澤 四の五の言ってもね、「なんか事件を起こそう!」ってね。なんや難しいかもしれないけれど、学校じゃなかったっていいし、もう今まで見た事なくってもやっちゃえ! ってんで。

もう1つは、高度デザイン教育が必要になってきた。これは今までのデザイン教育の枠を超えた新しいトライアル、そういうものが俄然必要になってきた。だから今考えたらね、東北芸術工科大学のね、岸くんも居た、情報計画コースなんてね、先駆けですよ。やっぱり全部入り

の「やまがた宝さがし」みたいな、カリキュラムの中に、要するに丸ごとデザイン(※注1)というモノが全部入っちゃっていて、チームとして全部取り組んでぶつかってゆく。スキルとしての専門性が必要な所は、分担して各々が得意な所をカバーしあって担当する。それでいて何か山形っていう地域全体が持っている魅力とか、問題とか、或いはその裏で、何て言ったらいいんだろうな、オラが村の価値感というものをもう1回見直してね、それを、要するにもう一步始めよう、進めようって取り組みにまで繋げるってのは、今まさに地域が社会そのものに求めているデザインの理想だね。それを30年前に、岸くん含め、僕らがその中に居たっていうのは感慨深い事だと思うよ。

岸 あんな取り組みというかプログラムが、デザイン教育の中で成立していたっていうのは、地方の美術大学であったという、何か特色を出そうっていう舞台装置が整っていたっていう偶然の賜物ですよ。

長澤 新学部3年生はね、全国の6、7拠点で4～6週間、地域に入り込んで課題解決をするという事をカリキュラムとしてやっていてね。過疎地とか、産業が廃れたとか、若者が出てっちゃうとかいう全国的な問題が背景にあって、SOSを出してる町に乗り込んで行くのよ。これはね、「やまがた宝さがし」の経験が活きていると思う。乱暴に言えば、学生がお伺いしますと、それで、何でもでもやらして下さい。その代わり滞在しますと、6週間も！それで何がその地域にとって最も大事か？って、他所者がやってきて駆けずり回る。

岸 よそ者・若者・馬鹿者ってやつですね!?

長澤 でも、他所者がやってきて何をするかって一番のコアはね、質問するって事です。この地域のこれ、みんな大事にしてるけど、「何ですか?」ってね。地域の人にしたら当たり前の事なんですよ。でも改めて外からの他所者に「何で?」って問われたら、「そういえば何でだろうか?」になって、もう1度その物事自体を見直す。反芻し直す、これが自文化を見直すという行為ですよ。新たなキッカケになった時、もう1回改めてまた文化アイデンティティーの確立って出来るでしょ。だから僕らが山形でやっていた、“宝”から垣間見れる文化と深層心理とね、そこから先をもう一步踏み出して考えるっていうね。

※注1: デザインとは、「人間の創造力・構想力をもって、生活、産業、環境に働きかけ、その改善を図る営みのことである。つまり、人間の幸せという大きな目的のもとに、創造力・構想力を駆使して、私達の周囲に働きかけ、様々な関係を調整する行為を総称してデザインという。」

参照 / 「デザイン原論」河北秀也著

地域に例えれば、天草なんていう地域は、またもれなく衰退の一途を辿っている。だけど学生が天草に行って住んで、何が一番大事？と、地元の人が大事にしてるモノを見つける。一方で、地元の人達は若い子達が来るから、みんなで交流する訳だよね。その中で質問される事が実はとっても大事な事で、ましてや質問が出るほど、質問しなきゃいけない程の期間、つまりお客さんでは無くなる期間、住まわせる事が大事で。それはもっと市の広報とかに載っている様な外向きの観光案内の話じゃなくて、その暮らしと人、誇りと文化が、これ大事なんや！これ美味しいよ！っていう普通のこと。また、この時はこれ絶対こうしないとイケないんだっていう決まった風習まで掘り起こす訳なんですよ。「それ何で？」を「暮らしている人」は考えた事が無い。代々そうだったからという慣習が文化だから。それをね、聞くっていうのが面白いんだよね。これでまた、ココでコロナが生きて来るのよね。「もう東京は戻らなくていいから、お前らアッチに住め！」とね。授業なんかはオンラインでやれるし、必修科目の授業はZoomで済ませちゃいいじゃんって事です。

岸 なるほど、凄い逆振りしたって訳ですね!?

長澤 あとはもうとにかく質問しまくって、なんで？やろうよ！やろうよ！っていう、ひっかき回し役と、訳分らないから聞き役と。これが地域を元気にして、もっと、一番元気になったのは町長。「あんた方が独断でできることは、名刺の一つも作ってやってポジションを与えろよって」言ったら町長、本気になってやっちゃってさ。研究課題だから、必ず地元の役場にプレゼンする事を学生達には課して。彼ら、町づくり応援アドバイザーか何かに任命されて、条例で！それで3年生の時に滞在した6人の学生の中の3人が4年生になって、向こうへ住みついちゃった。それでどうしたか。住む所いるよね、ということで、町が用意してさ、お金も要るもんねって、バイトも町が用意して、町でいろんな活動に全部みんなで声かけてくれて、その一部始終をまとめたモノが卒業制作ですよ。もういわゆる“学問”を超えてしまっ、素晴らしいリアルな“作品”となりましたよ。

長澤 これまた典型的な事例だけど、熊本高校って高校があるの。その熊本高校と、ムサビが連携協定して。要は高校の中にクリエイティブイノベーション研究会で作っちゃって、これが高校生の自主活動なのに、鹿児島行ってワークショップやったりとか。夏休みとか使って、彼らは研究課題に取り組むっていう。

岸 でも基礎学問みたいなものっていうのを学んでないんですか？普通科高校で学ぶ様な。

長澤 進学校だから当然やっていてね。研究会サークル活動扱いだから、もう要するにクラブ活動ですよ。高大

連携してるから、受験に対する勉強は別の話なんだけど、逆に言ったらすごい実績を上げる訳なのよ。大概、みんな社会活動するからね。研究課題をポートフォリオに入れば総合型入試で合格しちゃうし。

岸 ヘー!! でも、ある程度まで僕は詰め込みの受験勉強もやっぱ大事だと思いますよ。

長澤 受験の科目は、それはそれでやっていて、夏休みとかそういう空き時間に部活でやってる。ところが、その部活自体が、美術室で絵を描いている時代の部活って訳じゃないんですよ。連携だから、また大学生を送り込んだり、今度は高校生達が上京して来て、もっと素朴な質問するみたいな世界が展開されてる訳だ。

岸 大学生と高校生がまた交流戦って事ですか？

長澤 それで、「あんたさあ、将来お医者さんになりたいと言ってるけど、それだけが人生じゃないよ。」みたいな話になる訳や。

岸 おかしな方向に行きそうな気もする。(笑)!

長澤 また社会人教育プログラムの方でも面白いのがあってね。病院マーケティングサミットっていう団体だったかな。

仕掛け人は一人のお医者さんなんだけど、「このままの病院でいいのか？」ってやっているんですよ。「あなたは医者を辞めたら生きていけるんですか？」みたいな。どっかで胡坐かいていないで、やっぱり医療を根本から変えないかん！と。知った様に、医療法人に参画しているけど、コロナでも表面化したけど、医療業界の構造が駄目だ！っていう問題意識から始まってんのよね。硬直してしまっ、当事者が見えなくなっているモノを気づかせられる工夫っていうの？その役目を果たす為の犠牲がただの犠牲なのか、改革者なのかって話だよね。

岸 医療法人の収支が良い反面、職員が大量退職ってニュースもしばしばありますからね。何かしらの不可思議に対して、一揆を起こしているって事ですか!?

長澤 でもそういうもんだと思いませんか？ みたいな。コッチは「何とかしよう集団」だから、「だよな〜」な世界がある訳ですよ。一方で、地殻変動はいろいろな所で出てきている訳。そういう外れた所から新しい発想をもった動きや、新世代が出てきてるのに、それに気が付く事、生かす事をこれからの社会が出来るのか。でもね、狼煙をあげ続けていけば、めぐり逢えるんですよ、だから一人ではない。僕らはそもそも美大だからファインアートを否定しているわけではなくって、でも守られた機構の中で、油絵描いているだけなんじゃ仕方ない。だから世間から見たブラックボックスの中で何が起きているの？っていう探求心に敏感である事と、自分自ら切り込んでゆくって事はテーゼとして不変な訳。岸くんもそう

いえば美大卒だったけど、そういった意味でクリエイティブな世界から、政治って世界に飛び込んで行った訳だし。その立場を使って何か仕掛けられるってのをやってるよな！でも、君は昔からそんなだったからな、今が在るんだろうな！（笑）。

情報の伝え方 (触れる様な実態のある・なし)

長澤 隣近所が疎遠かどうかは抜きにして、東京23区ってというのは人口が密集していることもあり、要するに一人暮らし所帯も多い現実も考えると、生活する為にオンラインというものを使っておいた方が良さそうだろうね。

岸 はい。だけど反面、紙ベースの要望ってものも必ずありますし、FAXが未だに必要とされる事情もありますから。また広報誌だって、散々言って今年度から全戸配布になりました。

長澤 かつて行政広報がB5判の官報みたいな所から始まって、A4サイズの冊子になり、中にはタブロイドにしてる町もあって、デジタル化の波でDTP印刷になって、結局それをオンラインなり、SNSなり、そのままホームページに貼れば、プリントすれば見れるでしょ？ って具合に進化してきた訳だけど。だけど、行政広報をじっくり見なきゃいけない人達っていうのも必ず居て。パパッと言わたってピンとこない、デバイスを利用する所には居ない層がね。つまり、情報の理解の仕方には二つあって、空間系の記憶っていうのは、放置してそこに置いておくと100年でも200年置いてある。これが新聞とか、雑誌とか、つまり印刷物ですよ。これに対して時間系の記憶っていうのは、電源切ったらパッと消えちゃう。この二つを考えるとね、眼が悪くなったり、加齢による衰えて、感覚が鈍くなるのは、人間って当たり前の事だけれども、人の何倍時間かけて、ゆっくり読まなきゃいけないし、大事な所を赤線引っぱって整理しなきゃいけない人達は一定数居る。役所は広報しております、DX進めます。とは言うけど、そういうデジタルでやって届ける相手の何割がそれに対応できるの？ やはり紙媒体のエッセンスを、つまり空間系の記憶は続けるってことが大事で、媒体の問題じゃないですよ。本来、情報を届ける先の人たちのリテラシーの問題なんですよ。また、広報機能というのは役所の中で唯一、役所の抱える仕事全部を横断的にプロデュースしなきゃいけない状況になった。だから企画がちゃんとしてないと、セクショナリズムの弊害で、全体像も把握しないでやると、ハチャメチャになっちゃう。広報課は何人でやってるんですか？ 或いは、年間の予算の幾らを、住民とのコミュニケーション



に割いているって言うんですか？ これが全国のお役所の実態ですよ。昨今、しばしば“政策デザイン”っていうけどね。その“政策デザイン”やる前に“デザイン”そのものを先ずは勉強しなさいよ！という話ですよ。そのときに一番大事なのは区長（首長）がそういう所に対するセンスを持ってるかどうかで見え方が大きく変わるよね。けどもう、どこ行ってもダメダメで。それは何故か？ 広報は首長の媒体だから、首長の近い場所に置くんですよ。でも考えたらね、本来は首長から近い所に、“広聴”が置かれるべきでね。自分の生活してる島の島民の気持ちを村長が理解しないでどうすんの？ っていうの。その相互理解の関係が成立する所にまで中々行きついていない。ポーズだけでもね、そこの役所、あるいは議会での議論が何を主軸として判断基準に置いてるかっていうのは透けて見えてくる訳です。「ホームページ見てください。」ってあれはね、福祉じゃないよ。

社会がもう大変転じて、コロナがキッカケだったけど、結果的にコロナのお知らせはオンラインに来てても、ジジババ動かないんですよ。郵送で紙媒体で送ってこないと！ デジタルネイティブ達が、自分たちが解る事だけで、社会全体が同じ様に理解できていると思うなよ！ っていうのを、やっぱりちゃんと議論していくべきだと思うね。考えてみれば、プロポーズしたんだろう？ 「結婚してくれ！」と。だけどそんなの信用出来ないじゃない。消えて行ってしまう時間系の記憶じゃわからんから、しょうがないから指輪買ってきて、コレだ！ って。その愛を、気持ちを、空間系の形に翻訳し直した訳だろう？ 人間の体ってそういうもんでさ。百回“好きだ”って言われたって、1回グニっと抱きしめてくれないと、本気なんだかどうか、わかんない訳ですよ。両方必要なんですよ、僕らは皮膚持って生きてるんだから。これを考えて、岸くんには政治の世界で実現してほしいわ。

岸 相変わらずですね、圧倒されました。承知しました！





次の時代を背負う若者達の
門出と一緒に祝う！！

昨年4月より18歳が“成人”となるも、節目としての二十歳。二十歳の集いに、“文教こども委員会”所属の来賓として参列させていただきました。



親子カフェ活動（こども食堂）

地域のこども達に、むしろ親たちの方が遊んでもらっているという、もはや“ねじれ”現象（笑）。いつもありがとうございます！

消防団機関科研修

待望のポンプ積載車が、所属分団にも貸与される事になる。
有事にいち早く駆け付ける原動力となると期待！！
ココまで来るのは長かったが、都へのロビーイング活動も功を奏したと思いたい。



区民をないがしろにする“無責任”と闘う！

目黒区議会議員 無所属

岸 大介

岸 大介 プロフィール

1973年 区内 長内医院にて生まれる
1986年 トキワ松学園小学校 卒業
1992年 秀明学園高校 卒業
1998年 東北芸術工科大学 デザイン工学部 卒業
2003年 NY市立大学ハンターカレッジ 経済学部 卒業
2005年 コロンビア大学 SIPA国際・行政学大学院 卒業
行政学修士
2007年 会社員、政党職員（本部国際局・都議会政策調査会等）を経て
2017年 衆議院議員（元復興副大臣、元文部科学大臣）政策担当秘書
2018年 帰郷後、地域の活動を始める
2019年 目黒区議会議員 初当選（現在1期目）
その他 防災語学ボランティア（英語）、防災士、消防団所属（特殊技能団員：大型車・特殊重機・危険物取扱い）

自己紹介・好み

家族：妻、息子、犬、ネコ
趣味：社交ダンス（ジルバ）、Perfume（アーティスト）、四国遍路、城址城跡・古銭湯巡り
好きな食べ物：蕎麦、カレー、牡蠣、無花果、純米酒
好きな歴史上の人物：仁科盛信（武田勝頼公実弟）、河井継之助（長岡藩家老）
好きな言葉：明日、世界が滅びるとしても
今日、君はリンゴの木を植える

連絡先：岸 大介

住 所：〒152-0033 目黒区大岡山1-13-10-1F
T E L：090-3360-3286
Email：info@kishidaisuke.com

個人献金をお願い

振込先

郵便振替 00120-6-487566
みずほ銀行 大岡山支店 普通 2339974

私の考えに、お力をお貸しください！
貴方様からのご献金をお待ち申し上げます。
（1口 3,000円より）

WEB・SNSでも活動を発信しております

Web



Facebook



Instagram



Youtube

